

# 「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～

# 梅下村塾

46



塾長 梅内拓生

(春暁冬暁)

春暁や始発勤務の夫  
送る

(上部素問 みさご  
句会 五月句会)

冬暁や豆腐屋の灯り  
ともりけり

(気仙詠み人知らず)

春暁は漢詩、俳句、  
短歌に好んで詠まれて  
おります。清少納言は  
枕草子で「春は曙、冬  
はつとめて」と述べて  
おります。真冬の暁に  
起きて寒さの中で仕事  
を始めるのには、意を  
決して、気持ちをしっ  
かりとしなければなり  
ません。早春の春暁も  
寒さが残っておりま  
す。6月6日の第一面

の「二世迷言」には便利  
な現代の電化時代に経  
験した東日本大震災  
で、改めて電気技術文  
明の恩恵を身に沁みて  
感じたが、さらなる電  
気の光を求めて技術開  
発が進んでいると報じ  
ている。地球誕生は46  
億年前と言われている  
ります。太陽系の中の  
地球は昼と夜とを繰り返して、そのなかで、  
生命が生まれ、人類  
が生まれ、文明が生ま  
れて来ました。

同じ第一面には次は  
夜空で魅了 気仙でも  
「部分月食」の記事が  
あります。この紙面は  
目に映る世界は目に映  
らない世界があつて、  
その二つの世界で成り  
立っているという日本  
文化の価値意識を述べ  
ていたとて間違いいも  
なく来る老後”  
”子も巣立ち夫婦で冷  
めた茶をすすり”  
”日に三度食う幸せに  
気がつかず”

ているのだろう。(春  
暁冬暁)の作品は、巡  
り変わる季節の変化の  
中で、世界を感じ取っ  
ているのだろう。

(老いと人生)

川柳目選句 木村自  
然児 6月7日第5面

町 狩集憲彦 第一章  
利他行への道」が掲載  
されています。利己と  
利他との微妙な調和の  
中に「無我」の世界が  
あるということのよう  
です。ヤマキさんとは  
昭和35年のチリ大津波  
で大被害をこうむった  
気仙地方の再興にヤマ  
キ家の個人資産をなげ  
うって尽くした当時の  
大船渡市長を務めた鈴  
木房之助氏が受け継い  
だ家の屋号への敬称で  
す。現在のヤマキさん  
の当主である宏延氏の  
昌子夫人が語るエピソードが述べられており  
ます。「朝起きると、子  
供たちがあらそってお  
じいちゃんの寝床はい  
くんです。ことに冬は  
寒いものですから、お  
じいちゃんの寝床であ  
ったためもらいたくて  
……するとおじいちゃ  
んは「天は人のうえに  
人をつくらず、人の下  
にひとをつくらず」っ  
て、毎日のように言い  
聞かせるんです。」  
老いては子や孫に家  
族、地域、世界の文化  
価値を伝えること、そ

れは老いの責任であ  
り、たのしみでもある  
と思う。

第4面には「大船渡  
湾港防波堤の建設は將  
来にとって正しい選択  
を 政策研究大学院大  
学 小松正之氏 陸前  
高田市広田町出身」の  
主張が掲載されてい  
る。巨大な防波堤建設  
の巨大津波防災効果へ  
の構造技術的、建築費  
用効果の限界、さらに  
これが引き起こす生態  
環境保全とそれに基す  
く海洋産業の維持と発  
展という問題への対  
応、まさに、経済、政  
治、自然環境、歴史文  
化、が関係する一筋縄  
ではないかない、困難な  
大問題への取り組みで  
ある。この主張は5月  
12日に気仙沼市、13日  
に大船渡市で開催し  
た、「森と水と命の惑  
星」国際会議く地域と  
世界の心と魂を詠むく  
の会議宣言に込められ  
ている地域の歴史と文  
化の奥底に流れている  
知恵、魂、心は世界に  
通じるものであるとい  
うことだと思ひます。